

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 工学系研究科修士1年

参加プログラム: IARU GSP 派遣先大学: University of California at Berkeley

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

サンフランシスコ近郊の街バークレーに位置しています。同大学は海外からの学生の受け入れを進めており、留学には最適の環境です。

参加した動機

以前にもアメリカの別の大学の研究室に1か月ほど所属したことがあったのですが、パソコンに向き合う時間も長く英語を話す時間を十分に確保することができませんでした。それを踏まえ今回は講義・ディスカッションスタイルの講義をとることで、英語の環境に浸ろうと考えました。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
先方からメールが来るのでその指示にしたがって登録してください。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
想像以上に時間がかかります。怠慢で遅れをとっていた私は焦らされました。また、今年アメリカ側のシステムの不具合で突然世界中のビザ申請等に遅れが生じ出国に影響がでた人もいました。早め早めの行動をお勧めします。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
歯医者には行っておいたほうがいいかと思えます。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)
学校指定の保険に加入しました。個人的にそれ以上のことはしていません。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)
単位互換ができるかもしれないのでその手続きを行いました。
出発が学期中だったのですが、各授業の先生に相談して期末試験の代替となるものを準備していただきました。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)
申請直前に慌てて Toefl を受け、申請規定ギリギリの点数をとりました。英語レベルは決して高くありません。
出国直前は英語を聞いたり読んだりする時間を増やしてなるべく英語脳にして臨みました。
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど
現金は多めに持って行ったほうがよいとおもいます。

学習・研究について

- ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
テーマは Social Science でした。毎日の予習としてかなりアナリティカルな文章を大量に読まされます。授業は講義とディスカッションスタイルです。課題はブログポストという名のレポート課題やプレゼンテーションでした。
- ② 学習・研究面でのアドバイス
予習をしないと、授業においていかれるどころか次の日もさらなる量の予習を課されるためさらに遅れをとります。つらくとも毎日やりきることをお勧めします。
- ③ 語学面での苦勞・アドバイス等
IARU はネイティブが大多数な上にノンネイティブの学生でもかなりの英語スキルを持っています。自分の英語力は最底辺だったので睡眠時間を削って勉強するなどして乗り切りました。

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
International House という国際学生寮が指定されました。家賃は食事込みで 3500 ドルほどだったかと思えます。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)
朝晩は寒く昼は暑いです。雨は降りません。大学周辺は学生の街という感じでたくさんのレストランやパブがあります。サンフランシスコまで無料バスが出ています。余らせるつもりで現金を大量に持っていきましたが想像以上に使いました。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)
治安が悪いとは言われていますが大学周辺は問題ありませんでした。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)
授業料\$3000、教科書\$70、I-House\$3500、食費は基本 I-house に含まれるが外食を数回したのでその分かかりました。サンフランシスコが電車で往復\$8、週末に旅行にいくと一回\$200 弱程かと思います。全てが異常な額です。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
Jasso: 16 万円、Santander:16 万円

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)
週に一回ジムに行き筋トレをしていました。また、水泳・バスケ等仲間と楽しみました。週末の半分は旅行、半分は勉強にあてていました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
IARU にはプログラム担当者がついており、週末等にちょっとしたイベントをつくってくれました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
全ての施設が完璧です。不自由することはありません。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

バークレーの通常のサマークラスでは大多数を中国からの学生が占めているため生の英語に触れる機会はなかなかありませんが、IARU には沢山のネイティブ生がいるため語学力の面でも非常に鍛えられます。また、各国のトップの学生を集めていることもあり、授業のレベルが高だけでなく彼らの勉強への向き合い方や人生観などかなり刺激を受けました。

居住した International House にも様々な国からの留学生が集められており、授業外でも新たな友達をつくる機会が沢山ありました。彼らと話すことで他国について直に学べるうえに日本という国を改めて客観的に見るよい機会になったと思います。

② 参加後の予定

スカイプ英会話、海外ドラマ・ニュース、英語書籍・論文などを通じて英語力の維持・向上を図りたいと思います。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

私のように英語が普通レベルでは体力的精神的にかなりつらい思いもしますが得られるものは他のコースよりも格段に大きいと思います。是非参加してみてください！

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。



IARU @ Berkeley の男子メンバー。サンフランシスコのバーにて

東京大学での所属学部/研究科・学年（プログラム開始時）：公共政策大学院 修士一年

参加プログラム： IARU GSP

派遣先大学：University of California at Berkeley

卒業・修了後の就職（希望）先： 1.研究職 2.専門職（医師・法曹・会計士等） 3.公務員 4.非営利団体
5.民間企業（業界：模索中） 6.起業 7.その他（ ）

参加の準備

①プログラムの参加手続き（手続きにあたってのアドバイスなど）提出書類が多いので、それぞれの締め切りを逃さないように気をつけてください。

②ビザの手続き（ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど）ビザは学生ビザと呼ばれるものです。ちょうど僕が留学する一ヶ月ほど前に米国のビザ申請システムが障害を起し、ビザの発給ができない状態になってしまいました。結局ビザシステムが復旧したのが出国の10日前で、ビザが届いたのが出国の前日（！）です。後輩の皆さんにはビザ申請だけは早め早めに手続きしておくことをお勧めします。向こうの大学からの書類発送にも時間はかかるので、担当者ともまめに連絡を取って早めの手続きを心がけてください。

③医療関係の準備（出発前の健康診断、予防接種等）

医療関係は特に準備していませんでしたが、地域によっては予防接種などを受けておいたほうが良いと思われます。

④保険関係の準備（加入した海外旅行傷害保険・留学保険等）大学から紹介を受けた学研災付帯海外留学保険に加入していました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど（履修・単位・試験・論文提出等に関して）留学期間が夏学期の試験日程とかぶっているため、S2タームの単位取得は難しいです。履修に関しては担当教授とよく相談しましょう。

⑥語学関係の準備（出発前の英語レベル・語学学習等）通学時間にtoeflのリスニングなどを聞いたりしていました。今思えば、アカデミックな英語だけでなく普通の会話に使われるような英語も学んでおくのが良かったかもしれません。具体的には海外のドラマを視聴するなど、ネイティブ同士の英語のリスニング力を高めるなどをすると良いと思います。

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど特にありませんが、二人部屋の場合はテーブルタップは持って行った方がよいと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要（授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等）今回のプログラムは社会運動の起こり、発展、拡散、帰結を分析する理論をリーディングや授業でのディスカッションを通して学び、その成果をケーススタディという形で発表するというものです。毎日大量のリーディングが課されるので、リーディング力は伸びます。具体的には大事どころだけを拾い読みするという技術が身につきました。

②学習・研究面でのアドバイス授業では積極的に発言した方がよいです。ディスカッションに参加することで理解も深まります。③語学面での苦労・アドバイス等ネイティブ同士の会話に入っていくのが非常に難しかったです。普段からアメリカのホームドラマなどを見て、ネイティブの英語に慣れるように努力するといいかもありません。

生活について

①宿泊先（種類（寮・ホームステイ・ルームシェア等）、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など）バークレーの留学生のための寮に滞在しました。円安の影響もあり、家賃は寮での食事も含めて6週間で40万円かかりました。IARUの学生は優先的に寮を手配されるようです。

②生活環境（気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法（海外送金・クレジットカード）など）カリフォルニアの気候は日本と異なり湿度が低く過ごしやすいです。バークレーの街はいわゆる学生街で治安もそれほど悪くはなかったです。サンフランシスコまでは地下鉄で30分ほどで行けるので、IARUの他の学生と一緒にサンフランシスコに行く機会が多かったです。お金の管理に関しては、現金はほとんど使わず、クレジットカードで済ませていました。

③危機管理関係（留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など）大学周辺はそれほど治安は悪くはないです。

④要した費用とその内訳（航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算）航空賃が往復で20万円。授業料37万円。寮費42万円。その他の費用10数万円として全部で百万円以上の金額がかかってしまいました。円安の影響が強く、もう少し奨学金が欲しかったです。

⑤奨学金（受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など）

JASSOから月8万円で2ヶ月で計16万円。Banco Santanderから16万円の奨学金で計32万円をいただきました。

⑥学習・研究以外の活動（スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など）

週末は留学生仲間とサンフランシスコの観光やヨセミテ国立公園などに二泊三日の旅行に行ったりしました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制（語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等）

IARUの学生に対しては、バークレーのプログラム担当者が様々な交流イベントを企画してくれたおかげで非常に仲良くなりました。そういう意味でサポート体制は厚かったです。

②大学の設備（図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等）

2ヶ月10ドルでジムが使い放題だったので、積極的に使っていました。寮の食堂の食事も思っていたほど悪くはなかったです。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感今回のプログラムに参加して非常に良かったと思っています。

留学を通じて海外の大学で行われている授業というものを具体的に体験できましたし、自分に不足しているものも痛感することができました。

②参加後の予定大学院での学位取得交換留学に応募することを考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス参加して損はないので、とりあえず応募してみることをオススメします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物東京大学の海外留学関係のサイト

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。